

令和5年度 鯖江市 総合戦略推進会議 第3分科会 議事要約

<開催概要>

- ・日時：令和5年10月5日（木）午後2時00分～午後4時00分まで
- ・会場：鯖江市役所 4階 全員協議会室

・議事

1. 開会
2. 議事
 - (1) 基本目標3の各施策実施事業、事業内容およびKPIについて
 - (2) 基本目標3のKPIおよび目標のタイトルについて
3. 閉会

・配布資料：

- 資料No.1 基本目標・基本施策の体系図
- 資料No.2 基本施策1～5（案）

1. 開会

2. 議事

(1) 基本目標3の各施策実施事業、事業内容およびKPIについて

資料No.1を事務局より説明

委員	<ul style="list-style-type: none">基本目標3「こどもまんなか！ 育てやすい暮らしやすいまちをつくる」の目標タイトルとKPI、基本施策について、その後基本施策1から5までを順に協議していきたい。この目標3のタイトルについて、ざっくばらんに話をしていきたいがどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">基本目標3では人口減少に着目している。人口を増やしたい中で、鯖江は育てやすく暮らしやすいまちを作っていかなければならない章立てにしている。このサブタイトルが最近国で言っている“こどもまんなか宣言”について、先月に鯖江市も宣言しており、事務局側ではこのキーワードを用意した。育児されている方達が住みやすいまちであるような事業が基本施策として並んでいる。一番上にある目標としてこのような名前が良いのかどうか、意見をいただければと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none">「こどもまんなか」のサブタイトルであるが、こどもだけではなくて全ての方の基本目標として捉えれば良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">“こどもまんなか宣言”もこのスタイル。こども中心だが、様々な年代の方もいらっしゃるのでは、そのような考え方で良いと思う。特に“こどもを中心”にと言う表現になると思う。
政策経営部長	<ul style="list-style-type: none">こどもの定義は基本的に18歳くらいまで。子育ての中で、高齢者や親御さんが当然関わっていただき、より良いまちを作っていく意味で全世代の表現になると思う。「育てやすい暮らしやすいまちをつくる」ことを大きなテーマとして、そのキーワードとして「こどもまんなか」の句の言葉を入れている。
委員	<ul style="list-style-type: none">18歳までで良いと思うが、高校に勤務している立場としては、高校生が含まれるのかどうか分かりづらいと思う。こどもと言うと、中学生までかなと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none">具体的な年齢層が分かりづらいと思う。何処を指しての目標なのか。「こどもまんなか」はどうしても幼児と感じてしまう。高校生や大学生が抜けているように感じる。その辺りがどうなのかと思う。「こどもまんなか」で大丈夫なのか心配。
委員	<ul style="list-style-type: none">基本施策5つ見ても、下の年齢層のこどものイメージを持つ。
健康福祉部長	<ul style="list-style-type: none">資料1で議論いただいているが、この後の資料ではお年寄りや高齢者、障がい者など全ての人が含まれてくる。「こどもまんなか」の思いはフラッグのような感じ。こどもが育てやすい社会は住みやすい社会と言うことで、このような表現をしている。“めがねのまち鯖江”と同じように「こどもまんなか」で表現しているが、誤解を招く、相応しくないのであれば違うネーミングでも良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none">サブタイトルについては、再考させていただく。
政策経営部長	<ul style="list-style-type: none">もともと「わくわく子育て日本一を目指して」の表現であった。分かりにくい部分

	もあるので、表現の仕方を戻すのか、工夫するのか考えて提案させていただく。
委員	・ 基本施策が5項目あるが、優先順位があるのか。上3つはこども関係。例えば4番の全年齢を一番上に持って行って、その下に付属する方が全年代対象であることが分かりやすいと思う。
事務局	・ 決まっていないので、分科会で協議いただければ良い。
委員	・ KPI 数値の件に関してだが、出生数を大きな目標としていくがこれで良いか。基本施策1から5までは細かい数値が出てくるが、一番大きいタイトルについては出生数だけとなっている。
政策経営部長	・ 自然増減の部分、現実的には自然減である。自然減を抑えていく中で、出生数を増やして死亡者数を減らすことが一番良いが、「育てやすい暮らしやすいまちをつくる」で死亡者数を減らすことを記載することがどうかと言うこともあって、出生数としている。 ・ 現実的にはこの KPI の達成は厳しい数値でもある。令和4年度の出生数は約480人であり、死亡者数は100人以上。自然増減の差がだんだん大きくなっているおり、人口減少につながっている現状である。
委員	・ 出生数はリアルな数値が取れると思うが、例えば福井で言うと「幸福度日本一」の数値はアンケートとなるので取りづらい。ここでは「育てやすい暮らしやすいまち」に関する KPI だと思う。この数値はアンケートにしかならないと思うが、出生数と併せてこのような数値があった方が分かるのでは。アンケートの取り方は分からないが、そのような数値があっても面白いのではないかと思った。例えば年代層に分けて比率を見るとか。このような事は可能か。
政策経営部長	・ 総合戦略は5年間だが、中間年に市民アンケートを実施するので項目として入れることは出来る。幸福度が分かる指数を KPI とすることは悪くないと思う。 ・ 1,000 件のアンケート調査と限られたこどもの回答を考慮しても500件程度の回答数と思う。500件程度のアンケート調査で指数を出していくしかないのでバランス的にどうかと思う。
委員	・ こどもは小中高校生があるが、会社等の単位でやったことがあるのか。
委員	・ 会社の単位ではない。会社の中では紙のアンケートはないが、ネット上では仕事の環境に満足しているかどうか等のアンケートは3か月に1回程度やっており、どのように変化しているのかを見て、それに合わせた対策を行っている。
委員	・ 誰が回答したか分かるのか。
委員	・ 全従業員対象で実施しており、誰かは分からないが、部門ごとには分かる。
委員	・ 企業等でそのようなアンケートを行うことも良いと思う。
事務局	・ アンケート調査でここに目標を置くことは出来る。 ・ もともと出生数を置いている意味は、基本目標3の取組みをしっかりとやっていくことによって、そこから生まれるアウトカム指標として、直接ではなく最終的には出生数にたどり着くような目標の立て方にしている。ここから先、出生数をプラスにしていくことは鯖江市1自治体で実現することは難しい。 ・ 人口ビジョンを作り変えていくが、将来推計も見えてくると、令和2~4年度の平均値510人よりプラス成長の数値を置くことは厳しい状況である。維持や落ち巾

	<p>を押させるような目標の置き方になってくると思う。それなら、アンケートや市民意向に置きかえることも1つの良い案なのかなと思う。事務局側で預かって検討させていただく。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体の人口はあえて載せないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・社会増減（転入転出の差）を指標として図っているのが基本目標2である。この差がマイナスになっている。何もしなければ減り続ける形となる。総合戦略の目標は社会増減と出生数、人口に関わる KPI はこの2つ。全体として捉えていないのは現実である。 ・社会増減（転入転出の差）と自然増減（出生死亡の差）。もともと社会増が多かったため、自然減があってもプラスとなり人口が維持されていた。近年は社会増減も減り、1年間で約300人の人口減。両方のフェーズともマイナスとなってきた。 ・基本目標2では社会減の抑制の目標を持っているので、これに相応するのであれば自然減の抑制に置き換えることで、若者から高齢者までの支援策として立てつけられている基本目標3にはふさわしい目標なのではないか。これを含めて先ほどのアンケート、このままの出生数と行くのかについては事務局で考えさせていただく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が育てやすいや暮らしやすいとすると、数が増えるから育てやすいとか暮らしやすいという訳でもないと思う。6ページの「子育てに満足している割合」や「この地域で今後も子育てをしたいと思う親の割合」などの指標を重視していくべきと思う。1頁にこれらの割合を載せても良いのでは。
政策経営部長	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広くやっていると、4つの基本目標で納めることは非常に難しい。「幸福寿命の延伸」と書いてあるが、身体だけでなく心も健康で長生きしてもらうことをやっていきたい。当然高齢者のことも考えている中で、子育てを生きがい・やりがいに感じられていることに繋げたい思いがある。 ・確かに子ども寄りの表現になっているので、もう少し幅広い言葉に変えることは考えさせて欲しい。この辺りを了解いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「幸福寿命」は分かりやすい言葉だと思う。KPIの数値に幸福寿命が指標として入る方が良いと思う。この辺りを検討して欲しい。

(2) 基本目標3のKPI および目標のタイトルについて

基本施策1について

委員	・ 基本施策1の①から④について、気付くことがあればお願いしたい。
委員	・ ①「結婚新生活応援事業」にある結婚に伴う新生活の費用の補助とは具体的にどのようなことか。
健康福祉部長	・ 特に若年層の方が、お金がないことが理由に結婚に踏み切れない時には、39歳以下の一定所得以下については30～100万円を国県もいただきながら支援する事業。 ・ 今9月議会で上程し認めてもらった。9月婚姻から対象となる。
委員	・ 可能であれば、事業中や実施期間等の記載があると分かりやすい。追記が出来るのであれば対応して欲しい。
事務局	・ 検討する。
委員	・ ①から④の中で、例えば高校生や大学生に関わるような事業はどれになるのか。
教育委員会	・ ④ワークライフバランスでは一部関係してくる。
委員	・ ①と④が合体したような事業、結婚出産が大きな目標なので、このイメージが上がれば出生率は上がると思う。女性が結婚出産子育てをすることが、マイナスのイメージ持っている方はやはり多いと思う。そこを塗り替える事業をもっと実施していった方が良いと思う。
委員	・ 多くは否定的なイメージは持っていないと思う。むしろ憧れの方が多いと思う。
学校教育課	・ ワークライフバランスに関する授業を学校で行った。
健康福祉部長	・ 中高生の頃から結婚や出産を意識して、将来のライフスタイルについての希望を持って創造することが大事である。そのような事業を入れさせていただく。
委員	・ 女性起業や女性活躍などの言葉が独り歩きしていると思う。どうしたら具体的になるか。これを事業でやることは難しい。現場で生き活きと仕事をしている女性を呼んで、リアル体験をもっと高校生に伝える方などの具体例を示すなどして、企業と連携できれば面白いと思う。検討して欲しい。
委員	・ 婚活イベントに抵抗があるのでは。開催しても行きやすい雰囲気ではないのではと勝手に思っている。どのような感じで実施しているのか。
子育て支援課長	・ 今月に県主催（結婚応援協議会）でバーベキュー大会や、市婦人福祉協議会では結婚相談所も月3回お願いしている。そのような会員を中心に婚活イベントを行っている。定員は10から20組程度で会費制。
委員	・ やっている情報が見られれば、入りやすいのでは。
委員	・ 都会だとかなり具体的に条件があり、最近ではマッチングアプリかなと思う。 ・ 市としてはどうなのか。
委員	・ あまり行っていないと思ってしまうと行けない。一杯来ていることが分かると行きやすい雰囲気になると思う。
政策経営部長	・ どのような方が来るのか分かった方が安心感はある。
健康福祉部長	・ マッチング系だと県がやっているものがある。そこで基礎情報を得ながら、登録する支援も行っている。実際成功された方もおり、今の時代にあっていると思う。
政策経営部長	・ 婚活イベントと書くとおかしい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに構えてしまう感じはある。実際に成功している例があるのであれば、何組誕生しているなど、実績が書いてあると行きやすいと思う。 ・ 自分の興味ある数字は結構見ると思う。
子育て支援課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果を言いたくない方もいらっしゃる。正確な成婚率の数値は掴めないのが難しい面もある。

基本施策2について

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回は質問したが、「働きながら子育てができるまち」の“ながら”の表現に変わるものはないのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ その意見を聞いて、絶対に働くことが必須でもない方もいると思うので、働きながら子育てをしなければならないのかと考える方もいると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県は共働き率が高い。働かなければいけない圧を感じる。それぞれの家庭の自由だと思う。 ・ 現状でも「女性が仕事と子育てを両立できる環境」を応援してくれることは良いが、もしかしたら両立しなさいと受け取る方もいると思う。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ イメージとしては、“自分らしく子育てができるまち”ということかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本施策1に女性が輝くまちの想像がある。女性が働くことに焦点を置いている。視線を子育てに置き換えたものが基本施策2であるので、「働きながら」になる。具体的な実施事業では、女性が働いていても子育てができる視点で書いているので、ここには言葉として「働く」はどうしても外せないと思う。 ・ 「ながら」の表現をどう言い換えると、市の言いたいことに繋がるのか、この場で良い言葉をいただけると有難い。事務局でも意見を伺っているので考えさせていただき、次回の戦略会議には提案したいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の女性の働き方は変わってきているのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業でも女性活躍推進は凄く言われている。女性従業員を取り上げて子育てや仕事のモチベーション等についてインタビューし社内報に掲載している。女性にフォーカスしたことは最近多いと感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤務時間（9時～18時、8時間労働）や労働日数（週5日）であるが、ベースは変わっていないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本そうであるが、小さな子どもがいる方は時短勤務を選択している方が多い。朝は1時間遅く来るとか、終わりは1時間早く帰るや、子どもの行事に合わせて、午前中は休暇、午後から在宅勤務（テレワーク）のような感じで、子どもにあわせた働き方がしやすくなっている。男性も理解していることは凄く感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の流れがコロナを契機に（働き方が）変わってきていると感じる。 ・ タイトルに「自分らしく」という表現が入ると良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校では将来は働くことが前提として教育している。何処かで女性が働くことを制限されてしまうような社会的な状況になっている。
政策経営部長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2分科会では、逆に「女性活躍」を出さないでと言われている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「女性活躍」や「女性が輝く」の単語が出過ぎるとプレッシャーになる方もいらっしゃる。「自分らしい」で緩和するのが望ましいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ そもそも基本施策2「働きながら子育てができるまち」の主語は、女性が前提にな

	っているのか。
委員	・ 男性育休などもある。主語が男性でもおかしくないと思う。
政策経営部長	・ 主語はどちらでもないと言いたいが、中身を見ると女性になってしまっている。
委員	・ どっちがしても良い。共舵と言うと男性が育休をとるなどして肩身が狭いイメージを受けると思うと、SDGS に反してしまう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7頁の課題解決に取り組むべきことでも、男性女性に関わらず同じ目線で進めていくことは課題として捉えている。基本施策の捉え方と若干ズレてるかも。 ・ 一方9頁 KPI でも男性の育児休業取得率の目標を置いている。男性女性に関わらずと言う考え方は必要であり、市としても全体としては捉えている。 ・ 基本目標名がどうしても女性が主語に付きやすい。女性に囚われやすい。 ・ 今の意見からすると、もう少し工夫をしないと偏ってしまう。検討したい。

基本施策3について

委員	・ 「子どもが～」の子どもと、基本目標2基本施策1「若者の～」の年齢層が分かりにくい。子どもと若者の違いについて、具体的に書いた方が良いのか、子どもとざっくりで良いのか。
委員	・ 内容を見ると、小中高どれにも関わりがあるように思う。
委員	・ ふるさと学習とは何か。
教育委員会	・ 小中学校での、ふるさとの歴史や文化を知ろうという出前講座を挙げている。
委員	・ ふるさと学習と基本施策3「子どもがいきいきと過ごすまち」の関係が分からない。
教育委員会	・ ふるさと学習の目的として、子どもにふるさとのことを知ってもらい、ふるさとを好きになってもらい、地域の活動に積極的に参加して欲しいという思いがある。
委員	・ 自分の住んでいるまちに愛着を持ってもらい、そこでいきいき過ごして欲しいと繋げているということか。
教育委員会	・ そのような思いである。
委員	・ 吉川地区においてだが、愛着があれば戻ってきて仕事するのではと話し合った。でも仕事がないと戻って来られない。鯖江は小中の企業がたくさんあるのが強みだと思っている。鯖江でも成功できる、大丈夫ということを伝えていくことがふるさと学習の目的ではないか。リアルに鯖江で活躍している人を派遣講師として授業を行うのは良いのではないか。
委員	・ 鯖江高校の進学先は55%が県内。県内では高い方で、県全体では33%しかない。京都府進学が多い。
教育委員会	・ 資料にはないが、基本目標2の実施策に、企業の協力を得て職場体験を挙げている。中学2年生において2日間、身近なところで職場体験をしていただく。また学校の方にも地元に着した活動をさせている方をお呼びしてお話を聞くような活動も行っている。こちらに載せるのがふさわしいかまた検討させていただきたい。
委員	・ 鯖江に生まれて、県外の大学に行っても戻ってくる人はどのぐらいいるのか。把握できるのか。
政策経営部長	・ 難しい。留年生や浪人生もいる中で、学校としてもそこまで追いかけていないのではないかと思う。鯖江高校においても、鯖江市内の生徒だけではない。

委員	・ 追跡調査まではしていない。鯖江市内の生徒が5割となっている。
委員	・ 鯖江高校は、中高一貫の話はあるのか。 ・ 県内の大学に行く場合、県内の子どもが優遇されるのか。
委員	・ 県の方が、県内大学進学への補助を考えている。
委員	・ 鯖江に住むとこれぐらいお得だと分かると鯖江に引越したくなるのではないか。
政策経営部長	・ 中学校の生徒数が減っていないので、中高一貫は難しい。ただ将来を考えると保育士などの人材確保の問題がある。資格をとって就職してもらうまでの制度設計をやっていかななくてはならない。
委員	・ 保育士になるための補助はあるのか。
健康福祉部長	・ 奨学金があり、市内に何年か勤めていただくと免除になる要件もある。
委員	・ 学生にはあるのか。
教育委員会	・ 市の奨学金制度がある。学生支援機構の奨学金がメインとなり、その補助として市の奨学金制度を利用される方がいる。年間10人程度。
委員	・ 情報が降りてきていないのではないか。
教育委員会	・ 中学校や高校でのお知らせ、HP上での掲載を行っている。

基本施策4について

委員	・ 「生涯青春」は「幸福寿命」と似ている。どちらかにならないか。
委員	・ 「健康寿命」もある。
政策経営部長	・ 幸福寿命は新しい言葉なので、調整したい。
委員	・ 実施施策⑤生涯スポーツの推進における「総合型地域スポーツクラブ活動推進事業」について、年齢層は子どもからお年寄りまで広く参加されているのか。
教育委員会	・ 小学校や中学校など広い年齢層の方に参加いただいている。
委員	・ もともと大人の団体なのか。
教育委員会	・ 運営しているのはもともと地域の大人の団体。それぞれの中学校区において、中学校の体育館を借りて活動されている団体を対象に出来た制度。
委員	・ イメージとしては、中学生が中心になってしまうが、そうではないということか。
教育委員会	・ もともとは地域の団体である。身体を動かす習慣を作ってもらおうという趣旨。
委員	・ 各中学校区にあるのは良い。
委員	・ KPIの大学活動参加者数や公民館活動参加者数は累計か。
事務局	・ 年間の数値である。現状値は令和4年度である。
委員	・ 基本施策4は全ての年齢層に対するものだと思う。基本施策1のところ産後ケア事業があったが、産後1歳までの子どもを持つ保護者の集いとある。仕事復帰のタイミングである産後1年の後のケアが抜けているのではないか。企業では時短勤務をしているという話もあったがどうか。
委員	・ 私の会社では1年半休みがとれるが、復帰すぐは仕事が負担になると聞く。そのため、なるべく時短勤務を選択できるように声かけをしている。
委員	・ 大手企業だと復帰できる環境があるが、小さな企業だと戻るところがなかったり、復帰の際のストレスがある。基本施策4に入れるべきか分からないが、産後1年で切らずもう少し見てあげられないか。
健康づくり課	・ 保育所に入ってからですと、発達面で気がかりがある場合は親子教室などで相談

長	の場は提供している。気がかりな親御さんについては、追ってはいるので、保育所の先生と連携を取りながら支援を続ける場合もある。
ダイバーシティ	・女性が復帰をする際のフォローやワークライフバランスに関する支援についてはこれから検討していきたい。

基本施策5について

委員	・ KPI の地域見守り体制の整備率とは、どのような数値か。
健康福祉部長	・ 高齢者や障がい者に対する地域の見守り体制のある町内の数。町内で組織やサロンがあり、高齢者等が集まる場所が出来ているまち。
委員	・ 第2回推進会議において、銀行における振込詐欺についてお話しがあったかと思う。それはこの項目に関連するのか。
健康福祉部長	・ 町内の見守り体制には直接関係しておらず、KPI の項目には入っていない。
委員	・ KPI には入っていませんが、実施施策②や③の事業に入らないのか。
ダイバーシティ	・ 見守りネットワークとの連携をしているが、事業として挙げるのかどうか検討したい。
政策経営部長	・ 実施施策②の方が分かりやすいのではないかと思うが、福祉系の事業が並んでいることもあり、内部で検討したい。
委員	・ 中高生ですりが出回っていると聞く。吉川地区では鯖江警察を呼んで勉強会があった。そのような内容はここに当たるのか。学校側ではどうか。
委員	・ 高校では薬物が当たるかと思う。既に薬物乱用防止教室を行っている。
委員	・ 子ども対象か。親は対象ではないのか。
委員	・ そうです。
委員	・ 市として青年教育があっても良いと思う。
ダイバーシティ	・ 依存症の話を消費者啓発で行っている。警察の生活安全課と連携して、出前講座にて機会を見て一緒にお話をさせていただくことは考えられる。
委員	・ 依存症というと何か。
ダイバーシティ	・ ゲームや買い物など。

事務局	・ 全ての基本施策を見た上で、基本目標に意見はないか。
委員	・ 答えはでないが「こどもまんなか」だけではないと思う。女性や男性、どの年代にも当てはまる内容。メインが「こども」だけではもったいないと思う。
事務局	・ 幅広い年齢層、対象を書いている目標なので、文言を検討する。
政策経営部長	・ 「幸福寿命」や多様性など対象を幅広く捉えられる言葉を使って分かりやすくしたい。
委員	・ 共通するのは、誰もが幸せになる方向だと思う。年代や性別を制限するのではない。「幸せ」という言葉はどの項目にも当てはまり、分かりやすいと思う。
政策経営部長	・ ありがとうございます。
委員	・ 「育てやすい」という言葉が最初に来ると、子ども中心になる。「暮らしやすい」がメインになると良い。

3. 閉会

(以 上)